

～ 市民憲章に触れて ～

ここ十和田市は市民憲章にも謳われているように、豊かな自然につつまれ、文化の香りがただよ、清々しい美しさを感じさせてくれるまちである、と私自身まさに実感しております。そして、「誰もが健康で思いやりにあふれ安心して暮らせるまち」を実現していくことが、市立病院である当院の使命であり、存在意義そのものであることも当然のことと認識しております。当院の発展には、「先人から受け継いだ開拓精神にはぐくまれた十和田市民」の皆様のお知恵とご協力が必要です。市民の皆様の当院を開拓し、改善してやろうという前向きな関わりをいただきながら、上十三地域の中核病院であることも踏まえて、人的・設備的な充実に向けてたゆまぬ努力を継続しなければならないと思っております。

～ 「和と輪」の医療 ～

その原動力は、職員一人一人が目指す医療を思い描き、実践しようと行動することそのものです。私の目指す医療のイメージは、和を重んじ輪になって患者さんをささえる医療です。ご家族も含めた医療・介護・福祉・予防医学に関わるすべての人々や、この地域のすべての医療介護福祉施設が手を取り合って調和を重視し、チームワーク良く、輪になって患者さんを包み込む医療、そしてそこに微笑み・笑いがあればいいと思っています。患者さんも含めたすべての医療に関わる皆様に、自分が受けたい医療とは何かを考えていただき、その実現に向けともに力を合わせて歩んで行きましょう。

～ 連携と質 ～

「和と輪」の医療を推し進めるためには、地域の医療・介護・福祉施設とのさらに一歩進んだ院外連携が必要不可欠です。突き詰めていくと人と人との連携には信頼感が欠かせません。院外との信頼感を得るためには、まずはきめの細かい風通しのよい院内連携の構築と医療の質の向上を図ることに尽きると思っております。

病院という組織はたくさんの職種で運営されており、そこに患者さん・ご家族・お見舞いの方なども加わり、人と人の摩擦が生じやすい環境にあると思います。その摩擦を少しでも和らげることができれば、我々職員も働きやすく、病んだ方も当院を利用しやすいと思います。その摩擦の解消がスムーズな院内連携につながり、ひいては深い信頼感に基づいた院外連携の構築へと発展していくと確信しております。私自身は、この摩擦の有無を感じ取り、その解消に努めて行きたいと思っております。

近年は医療の質が問われてきています。根拠(エビデンス)に基づいた医療(EBM)が実践されている割合を医療の質指標(Quality Indicator:QI)としてデータ化し、評価し、質改善に役立てている先駆的な病院も出てきており、当院としても、重点目標に据えて取り組んで行く所存です。この試みが病院の質改善に大いに貢献することになり、さらなる信頼感の醸成に寄与すると期待しております。

～ 当院をご利用いただく皆様へ ～

患者さん・ご家族・地域の皆様、当院に対してお気付きの点がございましたら、是非ご指摘ください。その貴重な声に真摯に耳を傾け、改善できることは即座に対応したいと考えております。そして当院をさらに利用しやすい医療機関として、一緒に育てていただきたいとお願いするしだいです。今後も病院機能の充実とその広報には力を入れていきたいと思いますが、当院の機能も知っていただいて上手に利用していただければありがたいと思います。

また、ともに働いてみたいと少しでも感じられた医師を含めた医療従事者の皆様がおりましたら、ご連絡をお待ちしております。

今後ともよろしくお願ひ致します。

丹野弘晃